

然る後、深洞じんどうに尋ね入りて一庵室あじちを見る。法華読誦こえの音、青天に響き、一乗談義ことの言、山中きこに聞ゆ。案内あないを触ふれて室しつに入り、
教主こつ積尊の御宝前に母の骨を安置し、五体を地に投げ、合掌して両眼を開き、尊容を拝したてまつる。歎喜身に余り、心の
苦しみ忽ち息やむ。我が頭こうべは父母の頭、我が足は父母の足、我が十指じっしは父母の十指、我が口くちは父母の口なり。譬たとば種子たねと菓子このみ
と、身と影との如し。教主積尊の成道は浄飯じょうぼん・麻耶まやの得道。吉占きつせん師子ししと青提女しょうだいによと目犍尊もっけん者は同時の成仏なり。是の如く観
ずる時、無始むしの業障ごうしょう、忽ち消え、心性の妙蓮、忽ちに開き給うか。然して後のちに随分ずいぶんに仏事を為し、事故じこなく還かえり給ふ云々。